

- まいわし対馬暖流系群については、令和2年度の資源評価において、親魚量が限界管理基準値を下回る状態にあると判断されたことから、令和3年(2021年)に資源再建計画を策定した。
- 資源再建計画の下、親魚量が令和13年(2031年)に50%以上の確率で目標管理基準値を上回るよう、漁獲シナリオに基づき調整する漁獲圧と、資源評価において示される資源量の予測値から算出されるABCの範囲内で、TACを設定することとしている。
- また、計画策定後、少なくとも2年ごとに資源評価に基づき達成状況の検証を行うこととしている。

令和7年度資源評価結果

2031年に親魚量が目標管理基準値案（108.9万トン）を上回る確率									
2031年に親魚量が限界管理基準値案（45.4万トン）を上回る確率									
2026	2027	2028	2029	2030	2031				
	137.8	122.8	116.0	112.9	111.4	98%	44%		
	142.1	128.9	122.4	119.3	118.1	99%	50%		
156.0	146.7	135.6	129.5	126.5	125.4	100%	58%		
	151.4	143.0	137.5	134.7	133.7	100%	65%		
	153.9	147.0	141.9	139.2	138.2	100%	69%		

- 令和7年度資源評価の結果は、以下のとおり。
 - ✓ 直近年である令和6年(2024年)の親魚量は72.9万トンで、目標管理基準値案(108.9万トン)は下回っている。
 - ✓ 現行の資源再建計画の措置を継続することで、親魚量は令和13年(2031年)に50%以上の確率で目標管理基準値案を上回る。
- 現行の資源再建計画の措置を継続することが妥当と考えられる。